

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271401947		
法人名	社会福祉法人 静雲会		
事業所名	グループホーム 静園		
所在地	〒859-2501 長崎県南島原市口之津町乙3475番地1・3476番地 (電話) 0957-86-5033		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月9日	評価確定日	平成21年2月24日

## 【情報提供票より】(H21年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 7月 1日		
ユニット数	2	利用定員数計	18 人
Aユニット職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	5.0 人
Bユニット職員数	10 人	常勤 7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	5.4 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての1階部分		
------	----------------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	12,000円		
その他経費	理美容代実費、おむつ代実費、光熱水費(1日あたり100円)		
敷金	有( ) 無( )		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.5 歳	最低	80 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	哲翁病院・山北クリニック・石川内科・草野歯科医院・渡部眼科医院・渡部歯科医院
---------	--


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周囲には馬鈴薯畑が広がる自然豊かな環境であり、ホーム内のホールからは海が一望できる風光明媚な場所に立地している。ホームの理念は「いつまでも自分らしく、健やかに笑顔で過ごすホーム」であり、それを具現化していくために毎月目標を掲げ、取り組んでいる。母体がお寺という特徴を活かし、毎月ホームでの御法話の機会を設け、生きることのありがたさや感謝の気持ちの大切さなどについて話していただくなど、人生を豊かにするための取り組みもある。介護計画は一人ひとりの「そのひとらしい暮らし」を支援する内容となっており、日々のケアではそれに基づいて本人の得意なことや好きなことに取り組めることを大切にしている。地域との交流も利用者のニーズ、あるいは地域密着型サービスの意義を踏まえて積極的に行なわれており、お寺の年間行事に参加し、地元の同年代の方々や触れ合ったり、地域の文化祭に作品を出展したり、またホーム主催の敬老会への参加を地元の方々に呼びかけたりしている。施設長を始め職員全員がケアの質を高めるための取り組みを日々行なっており、今後益々利用者のニーズに沿った支援が期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で指摘された項目は改善に向けて計画・実施されている。具体的には、地域とのつきあいについては、地域の行事や催しに積極的に参加したり、ホームの行事に地域の方々の参加を呼びかけたりして交流を図っており、同業者との交流を通じた向上では、地域の同業者団体であるグループホームケア研究会に加入し、他施設との交流を通じた中でのサービスの質の向上に努めている。重度化や終末期に向けた方針の共有については、勉強会や講習会に参加し、またホーム内で協議・検討を重ね、支援体制づくりに努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を日々の業務を振り返る機会と捉え、職員全員に個別に取り組んでもらい、それを基に個人面談や職員全員で話し合い、ケアについての共通理解や共通認識、及びサービスの質の向上へと繋げている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、自治会長、地域包括支援センター担当者、入居者家族が出席し、活動報告だけに留まらず地域の行事、催しへの参加など幅広い議題で話し合われている。外部評価の結果や改善計画についても報告されている。今後、益々の地域との密着を考慮して、構成メンバーに地域の代表者を追加される方向で検討されることを期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族が面会に来られた際に声をかけたり、話し合いの場を設けたりして、家族の意見、要望などを聞いている。また些細なことでも日頃から気軽に話していただけるように伝えられている。家族から要望や意見、苦情があった場合は全職員で共有し・検討し、改善へと繋げる体制がある。しかし、預かってもらっているが故に言えない家族の心情を汲み取り、家族アンケート等の実施を検討されることを期待したい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームのある自治会に加入しており、市民清掃に参加したり、回覧板を配布したりなどの役割を担われている。そのようにホーム側から地域への積極的な関わりにより、自治会長などから地域の行事や催しの案内があり、昨年は地域の文化祭に入居者の貼り絵の作品を出品された。また、ホームの敬老会に地域の方々の参加を呼びかけたりもされている。</p>

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の運営理念を職員全員で検討し、一人ひとりのその人らしさを大切にしたいとの思いで作成された理念はわかりやすく親しみやすい表現で表わされており、ホーム内の見やすい場所に掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を具現化していくために、理念に沿った具体的な目標を毎月の職員会議で話し合い、取り組んでいる。毎月の目標を掲げることによって理念を身近に感じ、また日々のケアで実践していく動機付けにもなっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームのある自治会に加入しており、市民清掃に参加したり、回覧板を配布したりなどの役割を担われている。そのようにホーム側から地域への積極的な関わりにより、自治会長などから地域の行事や催しの案内があり、去年は地域の文化祭に入居者の貼り絵の作品を出品された。また、ホームの敬老会に地域の方々の参加を呼びかけたりもされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を日々の業務を振り返る機会と捉え、職員全員に個別に取り組んでもらい、それを基に個人面談や職員全員で話し合い、ケアについての共通理解や共通認識、及びサービスの質の向上へと繋げている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自治会長、地域包括支援センター担当者、入居者家族が出席し、活動報告だけに留まらず地域の行事、催しへの参加など幅広い議題で話し合われている。外部評価の結果や改善計画についても報告されている。		運営推進会議の委員が現在は自治会長のみとなっている。地域密着型サービス事業所としてさらに地域と連携を図る観点から、地域の実情を知る方、例えば福祉的な知見を有する方に参加していただくことも検討されることに期待したい。

グループホーム 静園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には気軽に相談したり、意見交換できる関係を築いている。今年度は市から民生委員の方々の見学依頼があり、ホームの役割を理解していただくことについて連携し、協働して行なわれた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者一人ひとりの近況や暮らしぶりをそれぞれの担当職員がホーム便りとして作成し、毎月送付している。便りには一人ひとりの生活の様子が詳しく記されており、それが家族の安心へ繋がっている。その他にも健康状態に変化があった場合等必要に応じて連絡されている。また、金銭出納は事務所にて明確に行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際に声をかけたり、話し合いの場を設けたりして、家族の意見、要望などを聞いている。また些細なことでも日頃から気軽に話していただけるように伝えている。家族から要望や意見、苦情があった場合は全職員で共有し、検討し、改善へと繋げる体制がある。		これまでのところ具体的な要望や意見、苦情はないとのことであるが、家族としてはよほどのことがない限り直接的には意見を申し出しにくいという感情にも配慮し、ホーム側から積極的に意見を引き出す取り組みが期待される。その一つの方法としてホーム側から家族に対してアンケートの実施を検討されることに期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は入居者に不安を与えないように必要最小限にしている。止むを得ず異動があった場合は、入居者の不安を軽減し、影響を極力少なくするために一人ひとりの様子を把握し、対応するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にホーム内での勉強会を実施したり、グループホームケア研究会の主催する研修会、及び社会福祉協議会主催の研修会に参加し職員のスキルアップを図っている。研修内容については会議等の機会での職員にも伝え、職員間の共有を図るなどと共に、役に立つ書籍の購入等職員の学ぶ機会に活かしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の団体であるグループホームケア研究会の研修会に参加するなかで、他のホーム職員との意見交換や情報交換をしている。今後は更にホーム同士の相互交流や相互訪問などに取り組む予定もあり、それらを通してのサービスの質の向上が期待できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居を希望される方が安心して利用できるように、職員が何度も面会したり、ホームに遊びに来る機会を設けたりして徐々に慣れていただけるようにしている。また家族にも協力していただきながらこれまでの暮らしぶりを把握し、それをホームでも可能な限り継続できるように努めている。本人の使い慣れた物品などを多く持ち込み、本人の安心に繋がる工夫もなされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は「利用者と共に生活する」ことの大切さを理解しており、調理や洗濯、掃除などの家事や、貼り絵やしめ縄づくりなどの創作活動など入居者の得意なことや好きなことを活かしながら、それを職員と一緒に取り組んでいる様子が伺える。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者のこれまでの生活歴を把握し、またホームでの暮らしぶりの中から、あるいは日々の関わりの中で入居者の思いや意向を把握するように努めている。把握された情報を基に職員全員で検討し、職員全体で方針を共有しながら統一したケアを実践している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は本人や家族の希望を聞き、それを基に全職員が参加してのケア会議で検討し、作成している。作成された介護計画は、より本人らしく暮らしていくことを念頭に置いた内容となっており、個別の目標とケアの方法が詳しく記され、見やすくわかりやすい計画書になっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しは3ヶ月毎に行なわれており、見直しに際しては再度入居者の状態を確認・把握し、また本人や家族から暮らし方についての希望や意向の確認を行い、一人ひとりの現状に即した計画となるようにしている。身体状態や入院などの健康状態に変化があった場合にはそのつど見直している。</p>		

グループホーム 静園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活用し、ホーム内で医療処置を受けながらの生活の継続が可能となっている。また、医療機関との連携もスムーズになっている。入居者の状態に応じた通院支援も柔軟に対応している。また、お寺への参拝や保育園児との触れ合いを取り入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりのかかりつけ医と連携し、必要な医療を受けられるよう支援している。また状態に応じてかかりつけ医以外の医療機関の受診が必要だと考えられる場合にも、かかりつけ医と相談しながら適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については入居時に本人及び家族に説明を行なっている。現在までのところ終末期の入居者への支援の経験はないが、必要な場合に備え、かかりつけ医との連携体制やホーム内での支援体制などの準備を整えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉かけや対応は、本人の自尊心に配慮し、一人ひとりの尊厳を大切に接し方を心がけている。職員会議でも接し方や対応について意見交換し、日々の振り返りを行っている。個人記録などの個人情報の取り扱いについては、情報の流出防止のため保管場所を定め、適切に管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやペースを尊重し、できる限り本人のペースで過ごせるように支援している。大まかなホームの一日の流れはあるが、それに入居者を合わせるのではなく、その日の気分や体調に合わせて、食事や入浴、散歩や外出など柔軟に対応できるような支援体制を整えている。		

グループホーム 静園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや味付け、盛り付けなど、入居者がこれまで長年してきたこと、またはできることを職員と一緒に楽しくされている。また献立を作成する際にも、入居者の希望を聞いたり、昔ながらの懐かしい献立と一緒に考えたりして、食べる楽しみに留まらず食事全般が楽しく充実したものになるよう工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日は月曜日、水曜日、金曜日となっているが、それ以外でも希望があれば入浴できるよう対応している。また昼間だけの入浴ではなく、夜間の入浴も可能な体制を整えている。入浴の際にはゆっくりくつろいで入浴できるような配慮もある。時期によってゆず湯や菖蒲湯にするなど、季節感を感じられる工夫もなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意なことや好きなことを把握し、それを活かせる場面をつくり、生きがいや楽しみのある暮らしへと繋げている。しめ縄などの季節に合わせた創作活動やホーム主催の敬老会でのお品書き作成、地域の文化祭に出展するための貼り絵の作成など、入居者が目標や意欲を持って取り組める機会を多く設けている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者が戸外で過ごすことを大切にしており、ホームの年間行事予定で、花見や夏祭りの参加、紅葉見学、地域の催しへの参加などを計画するなどして、定期的に外に出る機会を設けている。その他にも買い物に行ったり、気候の良い日にはお弁当を持って近くの公園に行ったりなど、日常的に外へ出る機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームのすぐ外には道路があり、入居者の安全確保のために玄関には呼び出しホンを設置している。玄関やその他の出入り口、居室の窓は日中鍵をかけておらず、入居者の自由な暮らしを大切にケアを実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回避難訓練を行なっている。訓練は日中のみならず夜間も想定し、また地震や津波災害も想定して実施している。通報訓練なども合わせて行なっている。災害が発生した場合には近隣住民の方にも自動的に連絡が入るようになっており、地域との協力体制も整えている。		ホームの周辺に住宅等がなく、現状で火災などが発生した場合には夜勤職員のみで対応しなければならない状況であるため、地域の方々から速やかに、迅速に協力が得られるような体制づくりを検討されることに期待したい。具体的には自治会長などを通して予め協力をお願いされるなどの対策を検討されることが期待される。

グループホーム 静園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを配慮した献立となるよう配慮している。摂取量については毎回記録し、把握しており、水分摂取量も記録している。調理方法は一人ひとりの状態に合わせて、刻んだりとろみをつけたりなど食べやすいように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂、ホールは明るい雰囲気となるように、入居者が作られた創作作品や書初めの作品が展示されたり、餅つきをしたり外出した時の思い出の写真が貼られたりしている。また家庭的な装飾もなされている。お正月には各居室の入口にしめ縄を飾り、お正月らしい雰囲気づくりに努められた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は安心して落ち着ける空間づくりのために、本人、家族と話し合い、本人が好きなもの、思い出の品々、使い慣れたものをできるだけ持ち込まれている。家族の写真やお孫さんが描かれた絵などが飾られ、それぞれの入居者の大切にしたいものが多く持ち込まれている様子が伺えた。		